

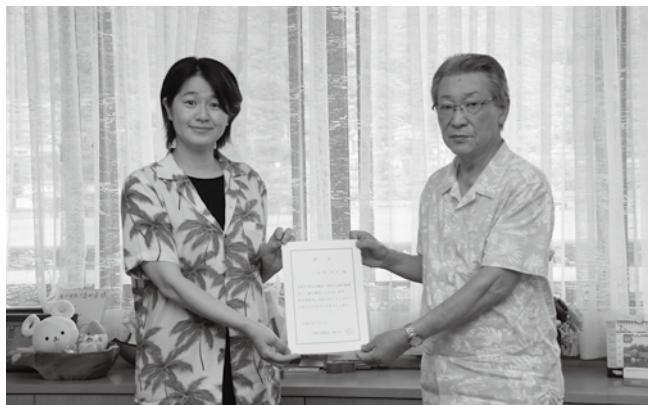
周防大島町の話題

地域おこし協力隊員着任

7月1日、大島庁舎において、地域おこし協力隊員への委嘱状の交付式が行われました。

新たに着任したのは、旅行業で多くの国を訪れた経験もある山田祥子さんで、周防大島観光協会の一員として、外国人向け観光コンテンツの企画をはじめとするインバウンド業務など観光をテーマとした地域の活性化に取り組んでいきます。

山田さんは、「大島から日本・世界に元気を届けたい」と抱負を語りました。



▲椎木町長から委嘱状を受け取る山田祥子さん

フェイスシールドを寄贈

6月26日、大島商船高等専門学校から、フェイスシールド100枚の寄贈がありました。フェイスシールドは、大島商船高等専門学校地域連携交流会から資材提供を受けて、商船高専の学生によって作製されたものです。

椎木町長は、「各種健康診査や保健指導をはじめ、消毒業務等に従事する際に着用し、感染拡大防止のために有効に活用させていただきたい」とお礼を述べました。



▲椎木町長にフェイスシールドを寄贈する福田勝哉校長

アルコール消毒液を寄贈

7月6日、公益社団法人柳井法人会から、アルコール消毒液25缶の寄贈がありました。

贈呈に訪れた柳井法人会の小野悟会長は、「アルコールが不足しているという話を聞いて、今回お役に立てたら」と寄贈への想いを語りました。

アルコールは、町内の小中学校に配布し、ウイルス対策として手指や校内の消毒などに活用されています。



▲西川教育長にアルコールを寄贈する小野悟会長㊦

社会を明るくする運動

7月1日、「社会を明るくする運動」を広く周知するため、大島保護区保護司会と大島地区更生保護女性会が中心となり、各庁舎で内閣総理大臣からのメッセージを伝達しました。

社会を明るくする運動は、犯罪や非行の防止と、罪を犯した人たちの更生への理解を深める全国的な運動で、7月は運動の強化月間となっています。



▲大島庁舎では保護司会の新山会長から椎木町長にメッセージが伝達されました